

1. 理事長からのご挨拶
2. 理事会からのお知らせ（総務）
3. 各委員会からのお知らせ
 - 1) 学術推進委員会
 - 2) 編集委員会
 - 3) 国際交流委員会
 - 4) 広報・渉外委員会
4. 第14回 学術集会のご報告
5. 第15回 学術集会のご案内
6. トピックス

放射線防護教育に関する共同研究を進めるとともに、学術集会での共同シンポジウムも開催しています。放射線診療には看護師だけでは理解が難しい側面もあり、診療放射線技師との協働によって有益な知見が得られると考えています。

さらに原子力防災の分野では、放射線看護専門看護師らを中心とした NuHAT（原子力災害支援保健チーム）の組織化を支援しており、その枠組みが整いつつあります。放射線診療と原子力防災、この二つを柱とする日本放射線看護学会の活動に、引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2. 理事会からのお知らせ（総務）

1) 会員動向

2025年3月31日時点の正会員数は369名（理事10名、監事2名含む）、学生会員4名、連携会員5名、会員総数は378名です。賛助会員は2社です。2024年度新入会員数が30名で、2024年度退会者数は31名です。会費納入状況では、2024年度会費納入率が86.3%となっております。会員の皆様には、引き続き会員増へのご協力をよろしくお願いいたします。

2) 定時総会報告

2025年度の定時総会が無事終了しました。
日時：2025年6月21日（土）13：30～14：50

場所：遠隔会議システム Zoom

2025年6月16日時点の正会員数が369人、委任状の提出者が97人、会場出席者（役員を含む）20人、合計117人であり、正会員の5分の1（74人）以上の出席により総会は成立しました。太田理事長が議長として議事を進行しました。

(1) 2024年度庶務報告（新川総務担当理事）

(2) 2024年度事業報告

① 日本放射線看護学会第13回学術集会（松成学術集会長）

② 編集委員会（吉田編集担当理事）

③ 学術推進委員会（野戸学術推進担当理事）

④ 国際交流委員会（山口国際交流担当理事）

⑤ 広報・渉外委員会（作田広報・渉外担当理事）

(3) 2024年度収支決算報告（加藤会計担当理事）

(4) 2024年度監査報告（草間監事・立崎監事）

以上、(1)～(4)についてすべて承認されました。

(5) 2025年度事業計画案

① 学術集会の開催

② 編集委員会

③ 国際交流委員会

④ 広報・渉外委員会

以上、①～④の事業計画案について、異議なく承認されました。

(6) 2025年度収支予算案（加藤会計担当理事）

会費納入率95%の総額、委員会の活動費、学術集会への補助金の増額をし、経常費用計7,332,000円となることが報告され、異議なく承認されました。

(7) 法人第5期理事・監事候補者選出選挙結果について

選挙管理委員会より、2024年9月3日付けで公示し、11月28日を投票締め切り日として選挙を行った結果が報告されました。

(1) 理事被選任者

太田勝正、加藤知子、角美奈子、野戸結花、堀田昇吾、松成裕子、吉田浩二、山口拓允

(2) 監事被選出者

浦田秀子、草間朋子

(8) 法人第4期理事会組織について

太田理事長から、定款第19条に基づき、新役員による理事会を組織することが報告されました。理事長は第1回理事会で互選により選出し、その後、指名理事を2名選出し、その結果については、HPで公表することを報告され、異議なく承認されました。

(9) 一般社団法人第15回学術集会について

2026年度開催の一般社団法人日本放射線看護学会第15回学術集会会長は、弘前大学の富澤登志子氏が理事会で承認されたことを報告され承認されました。

日程は、2026年11月28日(土)29日(日)で予定されていることを報告されました。

(10) その他

一般社団法人第14回学術集会について、学術集会長の佐藤美佳学術集会長からお願いと経過の報告がありました。

3. 各委員会からのお知らせ

1) 学術推進委員会

《委員会概要》

学術推進委員会は一般社団法人日本放射線看護学会の学術推進を目的とした活動を行っています。具体的には関連学会及び団体との連携強化に関する活動、ならびに学会および学術集会の活性化・学術推進活動を行っています。

《委員》

委員長：野戸結花

委員：太田勝正、佐藤美佳、小山内暢、堀田昇吾、根里明子、北島麻衣子

《活動内容》

2025年度は下記の活動を行っています。

(1) 学会および学術集会の活性化・学術推進活動
第14回学術集会において交流集会を開催しました。詳細は次回のニュースレターで報告を

します。

学術推進委員会企画交流集会：放射線看護モデルシラバスの活用に向けてーモデル授業 その6 動画・視覚教材で理解する放射線と放射線防護ー

日時：9月20日(土) 15:50~16:50

概要：2019年に公開した放射線看護モデルシラバス(1単位版、2コマ版)の活用を促進する目的で、昨年に引き続き、モデル授業として動画・視覚教材を活用した放射線看護教育をご紹介します。参加された方々とのディスカッションを通し、効果的な放射線看護教育について共有することができました。

(2) 「看護職のための眼の水晶体の放射線防護ガイドライン」普及のための広報活動

昨年度に引き続いて、第14回学術集会で本ガイドライン導入に関する相談会を実施しました。

(3) 放射線看護専門看護師の活動支援

放射線看護高度看護実践者を教育する教育課程(大学院)の修了生のネットワークである「放射線看護キャリア開発グループ」の活動を支援しています。「放射線看護キャリア開発グループ」では、定期的にオンライン会議を開催し、積極的な情報交換を行っています。今年度は第14回学術集会で放射線看護キャリア開発グループとの共同企画で放射線看護に関する相談会「よろず相談 Café」を開催しました。また、放射線看護キャリア開発グループ主催で交流集会「神経内分泌腫瘍に対するペプチド受容体放射性核種療法看護の情報交換会」の開催を支援しました。

2) 編集委員会

《委員会概要》

編集委員会は、学会誌の編集と発行を行い、主に学会員皆様の論文投稿から論文掲載までの期間に関わります。また、この一連の作業

が円滑に進むように編集システムの環境を整えています。

《委員》

委員長：吉田浩二

副委員長：松成裕子

委員：大石景子、北宮千秋、佐藤美佳、
沼口香織、堀裕子

《活動内容》

学術誌第13巻1号を6月に発刊することが出来ました。現在は第13巻2号(2025年12月発刊予定)の編集作業に取り組んでいます。

学会員の皆様へ、以下のご報告があります。

- 2024年2月より投稿オンラインシステムが改訂されました。
- 年に1回、優秀論文賞を発表し、学術集会にて受賞者の表彰式と講演会を行っております。
- 2024年度優秀論文賞の受賞者と論文タイトルおよび概要は次の通りです。

優秀論文賞受賞者：日浅 友裕 氏(中京学院大学 看護学部)

論文タイトル：外来通院で放射線療法を受けるがん患者が実践すべきセルフケア

論文掲載情報：研究報告 日本放射線看護学会誌. 12(1): 3-12. 2024.

DOI:10.24680/rnsj.RJ-12007

論文概要：本研究は、外来通院で放射線療法を受けるがん患者に必要なセルフケア項目を明確化することを目的とした。文献検討および認定看護師への質問紙調査より抽出した48項目をもとに、がん看護専門看護師とがん放射線療法看護認定看護師の計6名による修正デルファイ法を実施し、I-CVI 0.78以上の基準を満たした44項目を最終決定した。得られたセルフケア項目は、治療プロセス4段階に分類され、看護実践における患者支援の指標としての活用

が期待される。

- 本学会誌の投稿規程を一部改正し、新たに「事例報告」の投稿区分を設けました。「事例報告」は、研究論文とは異なり、実践現場での経験を通じて得られた知見や工夫、課題への対応などを共有することを目的としており、日々の看護実践から学んだ貴重な情報を広く発信していただける機会となります。

■対象となる内容例：特定の患者・家族への看護支援における取り組み、多職種連携や地域連携の中での実践的工夫、看護教育・指導に関する具体的な事例、放射線診療に関する業務改善事例 など

編集委員会は、これからも皆様の研究成果や情報、放射線看護の実践を一早く発信し、社会に貢献できる学会誌を目指していきます。また、皆様への論文投稿支援も現在検討中です。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

3) 国際交流委員会

《委員会概要》

本委員会は2015年に発足し、放射線看護学に関する国内外の動向の把握と学会員への情報提供、国内外の関連学術団体との連絡・協力、本学会活動への国際的な情報発信の支援等の活動を行っています。

《委員》

委員長：山口拓允

副委員長：後藤あや

委員：古谷一隆、土谷比呂

《2025年度の活動予定》

- ・ 日本保健物理学会との協働で欧文誌の抄録を和訳し紹介
- ・ 第14回学術集会において国際交流企画の

実施

- ・ 放射線看護に関連する国際機関の報告物や学術誌の紹介
- ・ その他、放射線看護に関する国際的な情報発信

《新規委員の紹介》

この度、国際交流委員会の委員となりました土谷比呂と申します。看護師として臨床を7年経験し、現在は四国電力(株)原子力本部伊方発電所にて勤務しております。昨年度まで鹿児島大学保健学研究科放射線看護専門コースに在籍しており、大学院にて放射線看護について学ぶ中で、特に原子力災害関連に強く興味を持ち、原子力発電所の中のシステムや取り組み、必要な看護等を理解・実践したいと考え現職に就きました。国際交流委員会の活動を通じ、原子力発電所に勤務している看護師として皆様に有益な情報等をご提供できるよう努めてまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。(土谷比呂)

《活動報告》

9月20日と21日に福島県で開催された第14回学術集会では、国際交流委員会の企画として、福島県立医科大学看護学部・母性看護学／助産学部門講師であり、放射線医学県民健康管理センター妊産婦調査副室長を務める石井佳世子先生をお迎えし、「英語論文抄読の手法」をテーマに講演を行いました。石井先生は、英語論文に不慣れな参加者にもすぐに役立つ、検索から読解までの具体的なステップを丁寧に解説。まず日本語で関心のあるキーワードを洗い出し、DeepLなどの翻訳ツールで英訳してから、無料で利用できるPubMedで文献を検索する方法を紹介されました。特に、国内の医学論文データベース「医中誌Web」を経由してPubMedを検索すると、論文タイトルが日本語で表示され

るため、目的の論文を効率良く見つけられるテクニックは、多くの参加者にとって新鮮な驚きだったようです。抄読の際には、いきなり全文を読むのではなく、まず「タイトル」と「アブストラクト」をじっくり読み、興味を持った論文は「図表」や「結論」から目を通すことで、全体像を短時間で把握できるという実践的なコツが示されました。講演の後半では、石井先生が長年携わっている「福島県民健康調査」の成果も紹介されました。東日本大震災を経験した母親たちが、コロナ禍において再び産後うつリスクが上昇しているというデータからは、大規模災害後の継続的なメンタルヘルス支援の必要性が改めて強調されました。最後の質疑応答では、ChatGPTなどAIツールを活用した論文検索や執筆支援の可能性、その一方で情報の信頼性をいかに担保するかという課題について、活発な意見交換が行われ、有意義な議論で締めくくられました。

4) 広報・渉外委員会

《委員会概要》

広報・渉外委員会は、日本放射線看護学会の活動を会員の皆様や社会にお知らせし、関連する様々な学術団体等と連携・協働をはかる活動を行っております。

《委員》

委員長：堀田昇吾

副委員長：角美奈子

委員：作田裕美、大串晃弘、浅田裕美

《活動報告》

2025年度は下記の活動を行っています。

(1) 広報誌（ニュースレター）の発行（年2回発行）

10月の本号と2026年3月号の2刊発行する予定です。

(2) 学会ホームページの管理・更新

日本語版ならびに英語版のHP管理・更新を行っております。HPを活用し、学会内外からの情報をタイムリーに発信するよう努めております。

(3) 学会員向けメールの配信

学会ホームページ同様、学会内外からの情報をタイムリーに配信しております。

(4) 日本放射線技術学会との協定にそった学術協力の推進

①学術集会企画

【日本放射線看護学会 学術集会】

第14回学術集会において、日本放射線技術学会との共同企画を開催いたしました。

日時：2025年9月21日(日) 10:40~12:10

テーマ：「協働」-放射線治療におけるチーム医療に求められるもの

登壇者：

《公益社団法人日本放射線技術学会》

大吉一先生(国立がん研究センター東病院)

《一般社団法人日本放射線看護学会》

沼口香織先生(山梨大学医学部附属病院)

〔座長〕

市田隆雄先生(大阪公立大学医学部附属病院)、

堀田昇吾(東京医療保健大学)

【日本放射線技術学会 秋季学術大会】

第53回 秋季学術大会において、日本放射線技術学会との共同企画を予定しております。

日時：2025年10月18日(日)10:00~12:00

テーマ：病院において実施される放射線防護・安全教育を効果的・効率的に推進する上で“影響する要因”について語ろう！

本学会からは、司会に太田勝正先生(東都大学)、演者に佐藤裕美子先生(弘前大学医学部附属病院)、堀田昇吾が登壇する予定です。当日の様子等については、2026年3月に刊行予定のニュースレターで報告します。

②共同研究

本学会と日本放射線技術学会の会員に貢献する共同研究を進めております。2023年より実施した共同研究の結果が日本放射線看護学会雑誌に掲載されました。ぜひご一読ください。
作田 裕美, 他. 病院における効果的・効率的な放射線防護・安全教育のあり方に関する検討. 日本放射線看護学会誌. 2025; 13(1): 3-12.
<https://doi.org/10.24680/rnsj.24-005>

4. 第14回学術集会のご報告

日本放射線看護学会第14回学術集会会長

福島県立医科大学大学院医学研究科

教授 佐藤美佳

第14回学術集会は、2025年9月20日(土)・21日(日)にコラッセふくしま(福島市三河南町1-20)にて開催されました。本学術集会のテーマは「温故創新 ～放射線看護のパラダイムシフト～」とし、会長講演、基調講演、特別講演、教育講演、トピックス講演、シンポジウム、関連学会共同企画、市民公開講座&環境省セミナー、ランチョンセミナー、特別企画：映画上映会、一般演題発表、示説演題発表、ワークショップと様々な企画を準備しました。地方での開催となりましたが、多くの方にご参加いただき、盛会のうちに終える事が出来ました。ご参加いただきました皆さま、また学術集会の準備・運営にご協力いただきました皆さまに心より感謝申し上げます。



2011年の地震・津波・原子力による災害という三重の惨禍に見舞われた福島では、国内外からの多くの皆さまご支援により、様々な活動が展開されています。広島・長崎の知見を活かしつつ、原子力災害という五感に触れない放射線に係る影響についての調査研修や、被災者のこころのケアを含めた人々の生活と健康を支えている取り組みが、14年を経た今でも求められています。この原子力災害の経験は、放射線看護や保健師の役割を再定義する大きな転換点（パラダイムシフト）となったと言えます。本学術集会のテーマ「温故創新」には、古きを踏まえて多くの人々が共有している見方や思考の枠組みであるパラダイムシフトをはかるべく、原子力災害による放射線に対するネガティブなイメージを、日々進歩している放射線治療・診断の現状からポジティブに変えたいとの願いを込めました。原子力災害における看護師の役割について、改めて見直すとともに、これからの放射線治療における進化に伴い、放射線看護にも、新しいケア手順の開発や説明ツールの工夫など、科学的根拠に基づいた専門性と、人間に寄り添う創造性豊かなケアの担い手としての役割が求められます。

このようなテーマの中で、日本放射線看護学会理事長の太田勝正先生より、開会のご挨拶をいただき、会長講演にはじまり、特別講演1では、福島県立医科大学理事長の竹之下誠一先生から「変化を進化へー建学150年 福島医大の挑戦ー」をテーマに、福島医大の歴史から「福島の悲劇を、福島の軌跡へ」のスローガンのもと、現在の新型コロナウイルス感染症対応や放射線科学・創薬医療分野の新たな取り組みについてご講演いただきました。特別講演2では、大分県立看護科学大学名誉学長の草間朋子先生より、「放射線と向き合う看護」をテーマに、放射線科看護師や

CNS、CN、保健師等に必要とされる能力について提示いただくと共に、放射線看護学会の役割についてご講演いただきました。基調講演では、本学会理事長の太田勝正先生より

「放射線看護師は何を目指すか？」をテーマに、医用放射線の利用に伴う看護と原子力災害における看護と、放射線看護師の2つの役割についてご講演いただき、さらにはICRP勧告の理解の重要性についてあらためて認識させられました。

第14回学術集会より、学術集会への参加が「インターベンション エキスパートナース (INE)」資格更新単位 (5単位) および「核医学診療看護師」資格更新単位 (3単位) として承認されました。さらに、2025年度より、日本看護協会の専門看護師・認定看護師の更新制度の改正を受け、本プログラムのうち次の7つの講演を更新要件に換算可能な研修とし、受講した方に修了証を発行します。教育講演1は、福島県立医科大学の鈴木義行先生による「放射線治療によるがん免役の活性化と免疫放射線療法」。教育講演3は、総合南東北病院頭頸部画像診断センターの中里龍彦先生による「頭頸部がんに対するIVRと放射線治療の融合」。シンポジウム1は、風間聡美先生、工藤奈織美先生、飯塚織恵先生の3名による「原発事故から14年：事故によって避難指示を経験した地域の保健活動」。シンポジウム2は、佐藤久志先生、小森慎也先生、飯沼由紀恵先生の3名による「高精度放射線治療における看護師の役割」。シンポジウム3は、守屋靖代先生、浅井望美先生、佐藤良信先生の3名による「放射線看護CNSが語る放射線看護」。トピックス講演3は、福島県立医科大学の坪倉正治先生による「原子力災害における間接的健康影響と屋内退避の課題-福島・能登の事例から看護職の役割を考える」。そして、ワークショップは、緑川弘子先生他5

名による「みんなで考えよう！ 被覆材の固定方法」。これら7つの講演・ワークショップを研修として指定しました。



その他、教育講演2では、福島県立医科大学の志賀哲先生より「核医学治療の現状とこれから」をテーマに、核医学治療においては、 α 線治療薬を含む新たな治療法の開発により、がん治療においてますます重要な役割を担うことが期待されることをご講演いただきました。シンポジウム4は、日本放射線技術学会・日本放射線看護学会共同企画として、「「協働」－放射線治療におけるチーム医療に求められるもの」をテーマに、放射線治療に携わる看護師と診療放射線技師それぞれの立場からの発表の後、「協働を成功に導くカギは何か」についてディスカッションを行いました。シンポジウム5では、「災害後のメンタルヘルス～伝えたい支援者支援の実践と教訓～」をテーマに、震災前から地域で継続して活動している地域内の支援者と、震災後、福島に移り継続的に支援を行う支援者、それぞれの想いを語っていただきました。そして、トピックス講演1では、「原発事故におけるリスクコミュニケーションと看護師・保健師の役割」をテーマに、量子科学技術研究開発機構の熊谷敦史先生にご講演いただき、トピックス講演2では、「福島県助産師会における母子支援活動」をテーマに、福島県助産師会会長の小谷寿美恵先生に、原発事故当時の支援活

動についてご講演いただきました。

さらに、特別企画として映画「生きて、生きて、生きる。」の特別上映会を行うとともに、市民公開講座&環境省セミナーとして、富岡町民劇団ホームによる「朗読劇 生きている生きてゆく ～ビッグパレットふくしま避難所記より～」を公演いただきました。ランチョンセミナーでは、1日目は徳島大学の山下一太先生による「放射線＝怖い？ 正しく知って、正しく防ぐー現場看護師のための放射線リテラシー」を株式会社サージカル・スパイン様のご協賛によりご講演いただきました。2日目は福島県立医科大学の長谷川有史先生による「放射線災害ーその影と光ー」を株式会社千代田テクノル様のご協賛によりご講演いただきました。会員の皆さまからは、交流集会4演題、一般演題（口演）28演題、一般演題（示説）15演題の応募があり、示唆に富む内容で新しい交流が生まれました。



このように多くのプログラムにご協力いただきました、講師、座長、参加者の皆さまに感謝申し上げます。また、事後アンケートの結果、最も印象に残ったセッションは、1日目はシンポジウム2およびランチョンセミナー、2日目はワークショップおよび特別講演2でした。ほぼ全員が大変満足した・満足したという結果が得られました。自由記載では、専門性が増していて、学びの多い場となった、今後も参加したい等の意見が聞かれました。

また、1日目の学術集会終了後に、ホテル福

島グリーンパレスに於いて懇親会を開催いたしました。総勢87名の参加申込があり、福島県立医科大学の竹之下誠一理事長及び大分県立看護科学大学名誉学長の草間朋子よりご挨拶をいただいた後、乾杯は福島県立大学の山下俊一先生にご発声いただきました。福島の地酒や川内村で生産が始まった川内ワインを多数取り揃え、お料理とともに堪能することができました。会場内で参加者同士が交流を深めている場面が多くみられたことは、大変嬉しく思います。



また、学術集会前日にプレコンgress福島復興ツアーを企画し、30名にご参加いただきました。午前中は、東日本大震災・原子力災害伝承館を見学しましたが、高村昇館長にお出迎えいただき、大変恐縮いたしました。伝承館では語り部の講話・館内見学後、原発視察のAコースと復興視察のBコースに分かれてそれぞれ見学をしました。Bコースは、震災遺構請戸小学校や浅野燃糸の工場見学等を行いました。



次期学術集会は青森県弘前市での開催が決まっておりますので、また皆さまとの再会を

信じて、本学術集会報告を締めさせていただきます。本学術集会にご参加いただきました皆さま、ご支援にいただきました企業、関係職種、関係機関の方々に、こころより感謝申し上げます。

末筆ながら、皆さまのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

5. 第15回 学術集会のご案内

日本放射線看護学会第15回学術集会会長
弘前大学大学院保健学研究科看護学領域
教授 冨澤 登志子

第15回日本放射線看護学会学術集会を開催するにあたり、皆様にご挨拶申し上げます。

第15回学術集会のテーマは「放射線看護のネクストステージ AI・多職種との共創」です。

「放射線看護」は、東日本大震災と福島第一原子力発電所事故への対応を機に、弘前大学、長崎大学、鹿児島大学が連携して立ち上げた世界でも例のない専門分野です。誕生から15年、今では多くの看護職の皆様に参画いただく学会へと成長してまいりました。平時の放射線診療から放射線に関わる災害時まで、看護職が果たすべき役割の枠組みを明確化し、看護の質を高めるために活発な活動が展開されていることが共有されてきました。さらに、高度な実践から相談、倫理調整、教育、研究にわたる幅広い役割を担う放射線看護専門看護師のコースも立ち上がり、エビデンスに基づいた看護の追求、安全で安心できる病院環境の提供、そこにつながる人材育成の加速化が期待されているところであります。

そして今、日本は少子高齢化と医療人材不足という大きな構造変化の渦中にあります。医師の働き方改革によりタスクシフトが加速され、人材不足の中、専門分野の壁を越えた連携なく

しては、質の高い医療や看護の提供は不可能な状況です。さらに、グローバル化が進み、AIを取り入れた技術革新の波は、私たちの専門性について、「未来の在り方」を問いかけています。デジタル化できるのは何か、人でなければいけないのは何か、広がりがある専門性は何か・・・様々な切り口で考えていく必要があります。

また、放射線看護のすそ野を広げていくため多くの先輩方がご尽力してくださいました。しかし、10万人以上の看護職が個人線量計によるモニタリングを行っているとなると、基本的な知識やスキルを持った看護職、エビデンスを深めていく専門職や研究者がもっと増えていく必要があることを実感します。そのために、放射線看護を学んだ人たちが活躍できるようにこれまでの活動をもとにどのように放射線看護を社会システムに組み入れていくのか、標準化された教育をどのように展開していくのか、他の専門職と共通の目標をもってどのように活動していくのか、そうした視点で次のステージに歩いていくことが求められていると考えています。第14回の学術集会での活発な意見交換、多くの皆様の共通の課題については第15回でもさらにブラッシュアップできるように引き継ぎつつ、参加者の皆様一人ひとりが、放射線看護の未来を共に切り拓く、活発な情報共有と議論の場となることを心より期待しております。

記念すべき節目の会として、青森県弘前市にて多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

第15回学術集会

テーマ：「放射線看護のネクストステージ：AI・多職種との共創」

会期：2026年11月28日（土）・29日（日）

場所：弘前大学大学院保健学研究科

WEB：<https://rnsj15.com/>

6. トピック

認定看護師・専門看護師更新制度の変更と日本放射線看護学会の対応について

学術推進委員会

編集委員会

2025年度より、日本看護協会の認定看護師（CN）・専門看護師（CNS）・認定看護管理者（CNA）の更新制度が大きく改正されました。特に2028年度以降は、従来の実践報告書に代わり、「学術集会等での発表」または「論文掲載」を2回以上行うことなどが要件となります。これは、看護実践の成果を広く社会に可視化し、専門職としての活動をエビデンスとして共有していくことを目的としています。

放射線看護領域では、がん放射線療法看護認定看護師と放射線看護専門看護師がこの改正の対象に含まれており、両CN・CNSの会員の皆様にとっても重要な変化となります。こういった制度の変更に伴って、日本放射線看護学会では、以下の取り組みを2025年度より実施しております。

- 学術集会内外での研修受講換算プログラム：学術集会および学術集会以外の時期にも、更新要件に換算可能な研修を実施します。これにより、研修参加を通じて必要な受講時間を確保できる体制を整えます。具体的には、学術集会内で複数の研修を実施するとともに、オンライン等を活用して学術集会以外でも研修を企画し、CN/CNSの更新に必要な修了証を発行して参ります。
- 実践現場での知見共有の推進：放射線看護の現場で得られた経験や工夫、課題への対

応を会員間で共有することは、実践知の蓄積と発展につながります。学術集会を通じて、こうした知見を積極的に発信する場(口演発表・ポスター発表)を提供します。

- 日本放射線看護学会誌に「事例報告」区分を新設:更新制度の要件に沿い、学会誌に新たに「事例報告」の区分を設けました。これにより、日常の看護実践から得られた成果や課題解決の工夫を記録・発信しやすくなり、学会員全体での知の共有を促進します。

本学会は、会員の皆様の活動を支え、研修や学術集会、学会誌といった多様な場を通じて、更新制度への対応と放射線看護の質向上を両立できるよう取り組んでまいります。

【編集後記】

次回発刊は、2026年3月を予定しております。

皆様からのご意見や情報提供、ご要望など、事務局にお気軽にお寄せくださいませ。

広報・渉外委員会

堀田昇吾、角美奈子、作田裕美、大串晃弘、
浅田裕美